

上マージン 25mm

原稿範囲

[原著論文] 10pt, ゴシック, [原著論文], [解説・総説], [特集・小特集], [研究ノート], [談話室] のいずれかを明記

「ながれ」完全データ入稿用原稿執筆要項

18pt, 明朝 (複数行にわたる場合, 行間: 24 pt)

14pt, 明朝 (複数著者の場合, 行間: 20 pt)

9pt, 明朝

*流体力学大学 理学部

流体 太郎†

株式会社 ながれ 力学研究所

力学 次郎

Faculty of Engineering, University of Fluid

Fluid MECHANICS

9pt, 明朝 (英数字はTimes), 行間: 14 pt

200 字程度の邦文要旨を 9ポイント 明朝体で記入。ただし原稿種別によっては邦文要旨・受理日付・英文要旨 (キーワードを含む) が不要となっているものもあるので 注意すること。

16pt, Times (複数行にわたる場合, 行間: 24 pt)

Instruction for Journal of Japan Society of Fluid Mechanics (for Electronically Submitted Manuscript)

14pt, Times (複数著者の場合, 行間: 20 pt)

Taro RYUTAI, Faculty of Science, University of Fluid Mechanics 9pt, Times

Jiro RIKIGAKU, Research Center of Mechanics, Nagare Co., Ltd.

Fluid MECHANICS, Faculty of Engineering, University of Fluid

9pt, Times, 行間: 14 pt (Received 1 January, 2003; in revised form 1 July, 2003) 9pt, Times

Abstract of your paper should be written within 200 words

9pt, Times, Bold

(KEY WORDS): fluid mechanics, instruction, page format

章名サイズ: 10 pt, 章番号: Times Bold, 章名: ゴシック

1 はじめに

本文: 10 pt, 明朝 (英数字はTimes), 行間: 15 pt

日本流体力学学会誌「ながれ」に完全データ入稿する原稿は、この執筆要項に従って作成して下さい。原稿は A4 版の PDF で投稿することとし、それを版下原稿とします。英文の原稿も受け付けます。

2 原稿用紙

原稿の用紙サイズは A4 サイズとします。上マージンは 25mm, 下左右のマージンは 20mm として下さい。1 ページ目は、邦文タイトル、著者所属、著者名、邦文要旨、英文タイトル、英文著者名、英文著者所属、英文要旨を 1 段組で記し、その下より 2 段組で本

*〒 152-0011 目黒区原町 1-16-5

†E-mail: jsfm@rf7.so-net.ne.jp

文を書き始めて下さい。各セクションの行間値は 3 章で指定していますが、基本的にフォントサイズの 1.5 倍程度としています。

3 論文体裁

節名サイズ: 10 pt, 節番号: Times Bold, 節名: ゴシック

3.1 原稿種別

完全データ入稿の対象となる原稿種別は、[原著論文]・[解説・総説]・[特集・小特集]・[研究ノート]・[談話室] の 5 種類です。

1 ページ目の左上隅に、原稿種別 (ただし解説・総説は併記する必要はなく該当するものを 1 つ選択、特集・小特集においても同様) を □ で囲み、10 ポイントのゴシックで記してください。また、邦文要旨・受理日付・英文要旨・キーワードは、[特集・小特集] および [談話室] では不要です (掲載されません)。

右マージン 20mm

9pt, 明朝 (英数字はTimes)

段の間隔 5mm

下マージン 20mm

左マージン 20mm

10mm 空ける

10mm 空ける

上マージン 25mm

偶数ページのヘッダーはタイトル(長ければ省略したタイトル) (9 pt, 明朝, 英数字 はTimes)

「ながれ」完全データ入稿用原稿執筆要項

原稿範囲

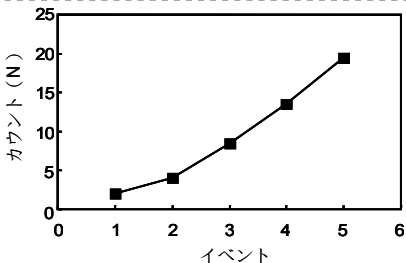


図1 図のキャプションは図の下に置く

9pt, ゴシック (数字はTimes Bold)

9pt, 明朝 (英数字 はTimes)

表1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す

9pt, 明朝 (英数字 はTimes)

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.5	2.1
2	1.2	3.2
3	1.1	2.6

9pt, ゴシック (数字はTimes Bold)

として下さい。

左マージン 20mm

3.2 邦文題目

18ポイント明朝体 (英数字は Times) あるいはこれに準じるフォントを用いてセンタリングして下さい。複数行にわたる場合の行間は24ポイントとして下さい。

3.3 邦文著者名

邦文題目との間を1行程度開け、9ポイントで著者所属、14ポイントで著者名を右寄せで記して下さい。複数著者の場合の行間は20ポイントとして下さい。代表著者の所属機関名の左側には記号(*)を付し、1ページ目左下の脚注に所在地を明記して下さい。代表著者名の右側には〒を付し、電子メールのアドレスを明記して下さい。

3.4 邦文要旨

邦文著者名との間を1行程度空け、200字程度の邦文要旨を書いて下さい。この際、9ポイント明朝体 (英数字は Times) あるいはこれに準じるフォントを用い、行間は14ポイントとして下さい。邦文要旨部分のマージンは、本文より左右10mm ずつ多くとって下さい。

3.5 英文題目

邦文要旨との間を1行程度空け、16ポイント Times 体あるいはこれに準じるフォントを用いてセンタリングし、Main Words の最初の文字のみを大文字にして下さい。複数行にわたる場合の行間は24ポイントとして下さい。

3.6 英文著者名・英文所属機関名

英文題目との間を1行程度空け、14ポイント Times 体あるいはこれに準じるフォントで1行目に英文著者名を書き、その右に9ポイント Times 体あるいはこれに準じるフォントで英文所属機関名を書いて下さい。複数著者の場合の行間は20ポイントとして下さい。

3.7 原稿受理日等

査読終了後の最終原稿提出時には、英文著者名・所属機関名の下の方に、9ポイント Times あるいはこれに準じるフォントで原稿受理日、修正原稿受理日を英文にて書いて下さい。書式は (Received day month, year; in revised form day month, year)

3.8 英文要旨

英文著者名・英文所属機関名 (最終原稿の場合は著者原稿受理日等) の間を1行空け、200 words 以内の英文要旨を書いて下さい。この際、9ポイントの Times 体あるいはこれに準じるフォントを用い、行間は14ポイントとして下さい。また、英文要旨の後に、キーワードを見本と同様の形式で記入して下さい。英文要旨部分のマージンは、本文より左右10mm ずつ多くとって下さい。

3.9 本文

1ページ目は英文要旨との間を1行程度空けて書き始め、2ページ目以降は原稿用紙上端から記して下さい。本文は2段組で、段と段の間隔は5mm として下さい。10ポイント明朝体 (英数字は Times) あるいはこれに準じるフォントを用い、行間は15ポイントとします。文字間隔は標準の設定とします。上記の設定で、1行当りの文字数は25文字、1ページの行数は48行程度となります。

3.9.1 見出し (見出しが1行以上になる場合はこの例のようにインデントして折り返す)

第一レベル (章) の見出しの前後はそれぞれ1行空けて下さい。第二レベル (節)、第三レベル (項) の見出しの前には1行の空行をとり、見出しの後には空行を取らずに本文を書いて下さい。章、節、項の見出しともに、見出し番号は10ポイント Times あるいはこれに準じるフォントの Bold 体を用い、見出しの文字にはゴシック体 (英数字は Times) あるいはこれに準じるフォントを用いて下さい。

3.10 図表

図表はそれぞれを記述した本文となるべく離れないような位置に配置して下さい。また、図表内の文字は本文と同程度の大きさとして下さい。図や写真を張り込む場合は、そのための空白スペースを設け、張り込まれた後の配置と対応するようにキャプションを置いて下さい。

図表の横幅は「2段ぶち抜き (170mm)」あるいは「1段の幅 (80mm)」のいずれかとして下さい。図表と文書本体との間には1~2行程度の空白を空けて区別を明確

段の間隔 5mm

下マージン 20mm

右マージン 20mm

上マージン 25mm

奇数ページのヘッダーは著者名(長ければ名字のみなどの省略形) (9 pt, 明朝, 英数字はTimes)

流体太郎・力学次郎 Fluid MECHANICS

原稿範囲

左マージン
20mm

にして下さい。図表のキャプションは邦文(本文が英語の場合は英文)で9ポイントとし、図の場合、図の下に、表の場合、表の上に配置して下さい。表記はそれぞれ図1、図2... (英文の場合、Fig.1, Fig.2...)、表1、表2... (英文の場合、Table 1, Table 2...) とし、本文中に表れる時も同じフォントを用いて下さい。

カラーで作成された図であっても、著者からの特別の希望がない場合は白黒で印刷されます。白黒で出力された場合の品質に注意して作成して下さい。また、カラーでの出力を希望する場合は、別途カラー用の印刷費用がかかります。

3.11 数式および数学記号

以下の式(1)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(i) \quad (1)$$

1文字分
空ける

のように本文と独立している数式は、本文より1文字分下げして配置し、式番号は括弧書きで右詰めに配置して下さい。本文と独立している数式でも、本文中の数式でも、同じ数式用のフォントを用いて作成して下さい。

3.12 引用文献

本文末尾¹⁾にまとめ、本文や図表中の引用箇所には小片括弧²⁾を付した番号(上付き6ポイント程度)を記入し、末尾の引用文献との対応を明記して下さい⁴⁾¹⁰⁾。本文中の引用箇所の表記は、引用文献が一つの場合は1)、二つの場合は2,3)、三つ以上の場合は4-10)の様に記して下さい。

本文末尾の引用文献の記載方法は、雑誌の場合「著者:論文題目,雑誌名,巻(年)頁」¹⁾、講演論文集の場合「著者:論文題目,講演論文集名(欧文の場合 italic),巻(年)頁」²⁾、書籍の場合「著者:書籍名(欧文の場合 italic)(出版社,発行年)引用頁」³⁾として下さい。10ポイント明朝体(英数字はTimes)あるいはこれに準じるフォントを用い、行間は15ポイントとします。文献には通し番号1), 2).. を付し、インデントして下さい。

4 その他

最終ページは左右の段落が出来るだけそろるように調整して下さい。各ページの下中央付近に、任意のフォントでページ番号を付して下さい。本書式と著しく異なる原稿は返却します。

謝辞:「謝辞」は「本文」の後に置いて下さい。10ポイント明朝体(英数字はTimes)あるいはこれに準じるフォントを使用し、行間は15ポイントとして下さい。

付録1: 付録の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「引用文献」の間に置いて下さい。

付録2: 付録の書式

付録の本文の書式は付録の長さに応じて、8~9ポイント明朝体(英数字はTimes)あるいはこれに準じるフォントを用い、行間は14ポイントとして下さい。付録の見出しは、9ポイントゴシック体(英数字はTimes)あるいはこれに準じるフォントを使用して下さい。通し番号(付録1・付録2..)はTimes, Boldとして下さい。

引用文献

- 1) Cantwell, B.J.: Organized motion in turbulent flow, *Annual Rev. Fluid Mech.*, 13 (1981) 457-515.
- 2) Pearson, H. J. & Britter, R. E.: A stational model for vertical turbulent diffusion in stably stratified flow, *Proc. 2nd IAHR Symp. on Stratified Flows*, 1 (1980) 269-279.
- 3) Temam, R.: *Turbulence and Navier-Stokes Equations*, Springer Lecture Notes in Mathematics No.565 (Springer, 1976) 123-135.

右マージン
20mm

段の間隔 5mm

下マージン 20mm